

# ポジティブな女たち

## 女たち・いのちのちのちの大行進

反原発運動をしてきた女性たちがすべての女性に贈る  
「続けていける」プロテストのかたち

撮影 島田恵



「女たち・いのちのちの大行進」実行委員

本多 容子



さわやかに晴れた5月11日の母の日、上野で「女たち・いのちのちの大行進」という女性のデモが行なわれ、全国から色とりどりの服を着たおおよそ1000人の参加者が集まった。

デモの前には「希望のフェス」というコンサートが行なわれ、全編（歌詞も）手話通訳つきだった。舞台中央には少女がえがかれた「女たち・いのちのちの大行進」の横断幕。障がいをもつ若い人、沖縄、アイヌ民族継承者、在日韓国人、福島的女性、海外からのメッセージで開幕。原発ゼロのゆるキャラ「ゼロノミクマ」の司会で、アイヌ舞踊、古代フラの踊り、ちんどん、沖縄、在日韓国人歌姫のライブがそれぞれワークショップを含んで行なわれ、フィナーレでは会場の女性たちも踊りだした。

その後、女性たちは、車椅子の参加者に合わせてコース設定した1・2キロの「ゆっくりウォーク」に出発。「原発・核はいらない」「戦争はいらない」「差別はいらない」という3つのメッセージ横断幕を先頭に、思い思いのメッセージを持ち、デモなど行われることのない上野の街を歌いながら笑顔で歩いた。

シュプレヒコールもノボリ旗も大音響もなし。あつたのは笑顔と歌と、沿道の驚き顔だ。警備の警察官もリラックスしていて、参加者に「女優さんが一緒に歩いてるんだって?どこに」と聞く人がいたという。

実行委員はほとんどが、福島第一原発事故後や、その前から運動してきた「女たちの一票一揆」「脱原発福島ネットワーク」「原発いらない福島の女たち」などの団体やネットワークの中心メンバー。しかし最後